

第4回 災害時の連携を考える 長野フォーラム

～災害に強い、さらなる
地域力の向上を目指して～

被災者目線の支援活動には、行政、社会福祉協議会、NPO・民間の相互理解と信頼関係が不可欠です。そのため大切な場として第4回の長野フォーラムを開催いたします。

開催日:2022年 2月15日[火] 13:30～16:30〈参加費:無料〉

対象者

県・市町村の防災関係部署、社会福祉協議会の職員
防災活動に関心のある個人・団体・企業
災害時支援活動を予定している全国の団体・企業・個人等

全編オンラインにて開催 定員:200人〈予定〉

※オンラインにて申し込みいただいた先着順とさせていただきます。



災害支援のネットワークを更に広げ、
未来の災害への備えをみんなの力で!

【お申込み・お問合せ先】



長野県災害時支援ネットワーク

事務局

特定非営利活動法人 長野県NPOセンター〔長野市高田1029-1〕

TEL:026-269-0015 E-Mail: info@npo-nagano.org

お申込みはコチラ▼



HPはコチラ▼



主催: 長野県災害時支援ネットワーク

(構成団体・長野県生活協同組合連合会、日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会、長野県長寿社会開発センター、長野県共同募金会、日本労働組合総連合会長野県連合会、長野県弁護士会、長野県社会福祉協議会、信州大学地域防災減災センター、長野県NPOセンター)

共催: 長野県、認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 後援: 長野県市長会、長野県町村会、全国社会福祉協議会

- 
- 【日程】 13:00 オンライン受付開始
13:30 開会・主催者挨拶、趣旨説明
13:40 全体会 15:20 分科会 16:30 閉会（予定）

全体会「被災者目線にたつ行政と民間との協働による支援とは」

行政には被災者支援を行う責任と義務があり、災害時には素早く、柔軟な対応が求められます。対応にあたっては被災者本位に考え、法律に基づく支援だけでなく、災害関連死の防止や尊厳を損なわない避難生活、復旧・復興とその後の生活再建につながる支援が必要です。しかし、行政だけでは被災者の視点に立った支援が十分にはできていないのが現状ではないでしょうか。

そこで今回の全体会では、そもそも「被災者支援とは何か、どうあるべきか」を災害支援に関わるすべての方とともに考えるとともに、被災地に生じる様々なニーズや課題に対して、行政と民間がいかに協働することが必要か、相互理解を深めます。そして、平時から信頼関係を築き、災害への備えにともに取り組むきっかけをつくります。

いずれかの分科会にご参加いただけます（参加方法はフォーラム中に案内します）

第1分科会 市町村域

市町村域ネットワークの必要性 と機能を考える

被災地の生活課題は多様で、制度だけでは対応できない課題（制度の狭間）も多く、行政や企業、NPO、宗教、ボランティア、社協等多様な主体が連携をとり、強みを活かして被災地を支援することが求められています。近年では、支援を効率的・円滑に届けるため、平時からの連携や中間支援機能（支援を調整する機能）について検討されています。本分科会では、昨年度から立ち上がった諏訪防災ネットワークの取り組みや諏訪市災害ボランティアセンターとの本年度の災害支援の実践から、市町村域ネットワークの必要性や機能について考えます。

第2分科会 重機支援

重機支援から考える 民間の災害支援と連携

人力だけでは難しい大きな石の移動や土砂の撤去、住家を支えての搬出等、重機が1台あるだけで災害支援の現場は大きく変わります。しかし、重機を使った支援と聞くと、連携や協働についてハードルが高いと感じられます。この分科会では、平時から重機支援者を養成し、発災時にはスピード感を持って支援に入る日本笑顔プロジェクトの実践を聞き、重機支援の強みや協働について考えます。

第3分科会 こども支援

平時より皆で考えよう、 災害時における子どもの力や 権利を大切にした取り組み

子ども支援のネットワーク構築の背景と今後のネットワークへ期待することを深めます。長野市で、東日本台風災害後に有志団体等が集まり「緊急時における子ども支援ネットワーク事業」が立ち上げとなりました。新たなネットワークづくりの取組を他の地域にも共有してもらい、官民連携のこども支援の必要性や課題等について意見交換します。

第4分科会 食支援

被災者の食を支えるために 必要なこと

被災地での食の支援の現状を2019年の台風災害時の活動から学び、東日本大震災以降10年間の食の支援から、被災者目線での「食支援の意味と役割」を考えます。また、将来の災害に備えて長野県での新たな行政の取組についても学ぶ場とし、支援団体の平時からの備えやつながりの大切さを考えます。